



庭木に利用する樹種の特徴と管理

～ ハナモモ ～

(一社)日本樹木医会富山県支部
樹木医 西村 正史

春の代表的な花木といえばサクラとウメであり、全国各地には有名な名所がたくさんあります。ハナモモもこれらの花木に匹敵するきれいな花を咲かせますが、残念ながら有名な名所となると極めて少ないようです。

1 特徴

ハナモモは、花を觀賞するためにモモ（バラ科サクラ属の落葉小高木、原産地は中国）を改良した栽培品種の総称です。

土質は特に選びませんが、水はけのよい肥沃な土壌と日向を好みます。実もなりますが、食用のモモと比べて小さくて苦味があり、食べられたものではありません。今回は代表的な4栽培品種を紹介します。なお、これらの写真を撮影した富山県中央植物園には、この4栽培品種を含めて17栽培品種51本のハナモモがあり、4月上旬から下旬にかけて觀賞することができます。

・寒緋桃（写真1）：花は八重咲きで、花の色は

最も濃い紅色です。日本の気候に適しており、公園や庭に植えられています。

- ・菊桃（写真2）：花はピンクの八重咲きで、先のとがった細長い花びらが特徴です。この特徴が菊の花に似ていることからこの名前が付けました。
- ・源平枝垂れ（写真3）：1本の木に白花と紅花、紅白の絞りの3色を咲かせます。
- ・寒白（写真4）：花は八重咲で、色は純白です。

2 維持管理

樹形を整え、花を数多く咲かせ、木を大きくさせないためには、花後なるべく早い時期に花の咲いた枝の基部の2～3芽を残して剪定します。8月頃に来年の花芽ができますので、それ以降の剪定は、枯れ枝や重なった枝を切り除くだけにします。ひこばえや幹から直接出る枝は、見つけ次第切り除きます。病虫害対策はサクラに準じて実施します。



写真1 寒緋桃



写真2 菊桃



写真3 源平枝垂れ



写真4 寒白